Recyclers Alliance NEWS Vol.225

BEST Recyclers Alliance NEWS

ベストリサイクラーズアライアンスニュース

中古・リビルトパーツのご提供で
お客様との夢をつなぐ情報誌

2022.3
Vol.225

株式会社JARA・第19期定時株主総会

北島宗尚氏取締役会長で矢島健一郎氏が代表に 他の役員はほぼ全員二代目が就任し活性化

▲取締役会長に就任した北島宗尚氏

▲代表取締役社長に就任した矢島健一郎氏

第20期　株式会社JARA経営体制

■ 取締役

	氏名	新任 再任	常勤 非常勤	兼職等
取締役会長	北島　宗尚	再任	常勤	
代表取締役社長	矢島　健一郎	再任	常勤	（豊田通商㈱より出向）
取締役	今井　雄治	再任	非常勤	㈱イマイ自動車　代表取締役
取締役	土門　志吉	再任	非常勤	㈱大晃商事　代表取締役社長
取締役	清水　道悦	再任	非常勤	㈱ユーパーツ　代表取締役社長
取締役	浅井　繁	再任	非常勤	豊田通商㈱資源循環第一部 部長
取締役	岡島　圭甫	再任	非常勤	豊田通商㈱〃 資源循環第二G GL
取締役	今枝　宏暢	新任	常勤	

■ 監査役

監査役	中村　博行	新任	非常勤	豊田通商㈱ 金属企画部 戦略グループリーダー
監査役	渡邊　寛樹	新任	非常勤	㈱キャレック　代表取締役社長

（株）JARA はこのほど第 19 期定時株主総会を開き、19 期事業報告とともに 20 期の事業計画及び新体制に関しての決定事項を明らかにした。これによると北島宗尚氏の取締役会長、矢島健一郎氏の代表取締役社長のそれぞれ就任と、他取締役の交代を含む新体制を発表した。基本的には経営陣の若返りが狙いで、JARA の会員で組織された JARA グループが昨年6月に一般社団法人格を得たことと合わせて今後の動きにかなりの変化が期待できそうだ。

株主総会は3月 11 日、（株）JARA 東京本社で一部 ZOOM を含んだハイブリッド形式で開催され、まず、はじめに北島宗尚社長から 19 期の事業報告がなされ、続いて各グループ長によるグループ報告が続いた。

◇取締役の選任が大幅に行われた

続いて取締役及び監査役の選任が行われ、取締役会長髙橋敏氏、専務取締役栗原裕之氏、取締役八束正氏、同飛田剛一氏、監査役岩瀬正美氏各位の退任と、北島宗尚氏の取締役会長、及び矢島健一郎氏の代表取締役社長就任、非常勤で今井雄治氏、土門志吉氏、清水道悦氏、浅井繁氏（豊田通商）、岡島圭甫氏（同）各氏の再任と、常勤で今枝宏暢氏の取締役就任を決定した。

非常勤取締役のうち今井雄治氏（（株）イマイ自動車）、土門志吉氏（（株）大晃商事）、清水道悦氏（（株）ユーパーツ）は現役の JARA グループ会員で（株）JARA と一般社団法人 JARA グループとのパイプ役が期待され、今後の経営に大きい影響があるものと思われる。

また、監査役には新たに中村博行氏（豊田通商）、渡邊寛樹氏（㈱キャレック）が就任した。

いずれにせよ役員層の顔ぶれは全員が二代目経営者で占められるところから今後の経営には時代に対応した新戦略が打ち出される公算が強い。

◇北島宗尚社長が改めて挨拶

取締役会長に就任した北島宗尚氏は「20 期の定時株主総会で発足後 17 年目を迎え永きにわたって（株）JARA の経営にご支援いただいた各位に心からお礼申し上げます。矢島健一郎氏と代表を交代することになりましたが、今しばらくは取締役会長として対内的にも対外的にもやり残した仕事に取り組むため執務できることを喜んでおります。（株）JARA は発足時、当時のエコライン様と業界では初の合併という形で動き始め、当初は5年で仕上げるという思いでしたが、周囲のご理解を得て今日まで重責を果たさせていただいたこと感謝しております。SPN 時代を経て ARN 様、エコライン様、ビッグウエーブ様各位とのゲートウエイ体制を整えて行った過程は私の記憶に残る作業でした。百年に一度の激変の時に当社が持つ相互流通のツールで顧客にリサイクル部品を届ける仕事が前進しつつあることは喜ばしいことと思っております」と挨拶した。

◇矢島健一郎新社長が抱負を語る

また代表取締役社長に就任した矢島健一郎氏も「豊田通商在任中に環境省循環型社会推進室に出向させていただき2年間、行政の立場から自動車リサイクルの業界を見つめる貴重な体験をさせていただき、その後に（株）JARA に出向いたしました。2019 年に取締役に推薦いただき翌年常務取締役に就任いたしました。今回の代表取締役社長就任はその責任の重大さに心引き締まる思いです。当面の私の仕事は新しくメンバーシップを持たれた JAPRA 様会員との連携を一刻も早く軌道に載せることだと思っておりまして、今後速やかに具体化に向かって精進してまいります。スクラップ事業の経験が長かった私ですが、改めてリサイクル部品流通の世界に親しく足を踏み入れて驚いたことは、JARA グループの会員各位が各社の経営情報を惜しむことなく相互に開示されて一致団結して経営学習に取り組まれておられることです。この気迫に遅れを取らないように（株）JARA の経営に取り組んで参る所存です」と抱負を述べた。

名実ともに若返りを果たしたことになり、今回の（株）JARA 定時株主総会の意義は大きいものがあるようだ。

一般社団法人JARAグループ第1回定時社員総会

川島準一郎理事長の体制を再確認し活動開始 新任理事二名の追加を上程し理事会体制強化

一般社団法人JARAグループ(川島準一郎理事長)は3月11日、法人格取得後初の定時社員総会をZOOM方式で開催、以下の要領で議事を行った。なお、今回は書面議決書及び委任状の事前提出のもと、全ての議案を可決、了承された。

総会は総合司会を岡野功氏((有)岡野自動車商会社長)が務め、土門志吉副理事長の開会宣言、近松利浩理事の三大信条唱和を経て、川島理事長の挨拶で開始された。

川島理事長は「3月11日は11年前の東日本大震災の当日に当たる。東京田町で総会中に震災が発生、関係者全員が迅速に事態に対応したのを覚えている。半導体不足やウクライナ問題の最中にある現状だが、将来のカーボンニュートラルの動きはリサイクル部品流通のチャンスと受け止め今期目標達成目指して前進したい」と参加者に挨拶し、議長選出を受け、議事に入った。

第一号議案は昨年からの事業報告、収支決算報告、監査報告で、川島理事長が事業報告を、事務局が収支決算報告を、最後に監査報告を栗原裕之監事がそれぞれ行った。

第二号議案は理事選任で川島理事長が新理事2名の選任を上程、了承された。このため新体制は理事長・川島準一郎、副理事長・土門志吉に加え、理事は今井雄治、近松利浩、渡邊寛樹(新任)、髙橋建作(新任)の4氏で監事を栗原裕之氏が担当することになった。

新任の渡邊、髙橋両理事は「教育方針を引継ぎ、理事長の思いを支える姿勢で教育問題に取り組む」(渡邊)、「自動車リサイクルの環境が激変の時を迎えている。JARAグループの前進が良い方向を保つよう努力したい」(髙橋)とそれぞれ挨拶した。

第三号議案は今年度事業計画案と収支予算案の審議で近松理事が新年度の部品流通拡大の勉強会について、今井理事がシステム委員会について、渡邊理事が次世代リーダー育成について、髙橋理事が広報活動全般についてそれぞれ今年度の見通しを表明した。また収支予算については事務局が報告を行った。

▲第一回目の定時社員総会で所信表明する川島準一郎理事長

一旦休憩の後、自動車再資源化協力機構からの「エアバッグ類車上作動処理比率・LiB回収システム登録率の向上について」の講演を聞き、続けて(株)JARA報告を同社今枝宏暢取締役から受けた。その報告の過程で北島宗尚、矢島健一郎両氏が前に立ち、同日午前中の(株)JARA株主総会の模様を直接報告し、取締役会長、代表取締役社長就任の挨拶を行い、全ての議事を終えた。

ビッグウェーブがヘッドライト補修をPR

▲専門家のヘッドライト補修が簡単に受けられる

(株)ビッグウェーブ(服部厚司社長)は昨秋来、流通相殺の形で取引を開始したヘッドライト補修のPRを強化している。これは同社のリサイクル部品を購入した取引先がFAX、電話、LINEなどで優先的にヘッドライト補修が受けられるシステムで整備工場の現場では重宝なシステムとなっている。

特に近況、取り沙汰されている特定整備に絡んで、エーミング整備を行う場合は肝心のヘッドライト周りの加修が必須のものになるため専門業者である(株)エーミングサービス丸イ(TEL090・6577・3111FAX050・2300・5053)との連携は効果があるようだ。

同社ではリサイクル部品の効用を整備工場にアピールするため具体的な営業活動を強化しているが、整備工場の現場でどのようなニーズが発生しているかについて検討を加え、即座に実施している。

今回のアピールもこの一環で「簡単に電話やFAXで故障箇所確認や修理料金見積り、修理発注ができるので是非活用してもらいたい」と呼びかけている。

ビッグウェーブが「クルマ社会の安全な未来を考える会」に参加 日本技術研修機構と連携を強化し自動車事情の収集に動く

▲BWが未来を考える業界人の会合に参加(日刊自動車提供)

(株)ビッグウェーブ(服部厚司社長)はこのほど都内で開かれた日本技術研修機構(JATTO・石川明男代表理事)が主催する「第一回クルマ社会の安全な未来を考える会」に参加した。

この会合は今後のクルマ社会構築のため先進安全自動車(ASV)整備に必要な人材・技術・情報・設備のあり方を討議するもので、大手機械工具商社、整備協業協同組合、整備フランチャイズ企業など30社(約50人)が参加し、熱心に情報交換が行われた。

会議では現在、約30%に止まっている特定整備認証取得の状況についても取得率向上のための方策が話し合われた。

これについては特定整備(電子制御装置整備)の一般社会での認知が遅れているため正確な対価が整備業界では得にくく、整備士の処遇改善に繋がらないという意見も出された。これを受けて電子制御装置整備の認知向上を目指したPR活動強化に着手し、手始めに内容をアピールしたパンフレットを会員企業に配布することを決めた。

自動車の廃棄ガラスを再利用して高級グラス 同社の化学部と地元名門窯元とが連携で

▲素材は廃棄車両から採取した廃棄ガラス

▲同社が地元窯元と協同開発した高級グラスの数々

▲同社の化学分析を担当する第20A工場プラント

▲ガラス素材を高級グラスに焼き上げる小樽の深川硝子工芸

▲山中真同社ELV事業部長

▲佐藤輝同社化学部長

北海道帯広市に本社を置く総合資源再生会社(株)マテック(杉山博康社長)はリサイクル部品生産を通じて廃棄自動車の資源再利用に取り組んでいる。今回、同社の自動車ガラスの資源再利用の模様についてその背景を取材した。地元の有力ガラス製品窯元と連携し、高級ガラス製品の開発に成功しており、同社の廃棄された自動車ガラスから一般向けのガラス製品を作り上げる動きは極めて珍しい試みだ。

(株)マテックは北海道帯広市に本社を置く鉄・非鉄スクラップやその他プラスティック、OA機器などの資源再利用を総合的に取り組む企業で、総従業員491名を擁する全国規模で見てもトップクラスの再資源事業者である。

◇道央道東拠点合わせ部品在庫量63000点

その同社の自動車リサイクル部門・ELV事業部(石狩市新港南)では、もう一ヶ所のグループ会社エルバ北海道を含め部門担当者数90人、月間車両処理台数1700台、リサイクル部品総在庫点数63000点という規模を誇っている。

ということから廃棄自動車から発生する廃棄ガラスだけでも相当な量になる。同社では廃棄車両からリサイクル部品を回収する過程でこの廃棄ガラスに着目、資源として再利用し、商品化することを思い立った。最終的に地元の有力ガラス製品窯元・(株)深川硝子工芸(小樽市)との連携にたどり着き、商品化を完成させた。

深川硝子工芸は明治39年に東京都深川区で創業したガラス製品の窯元としては老舗。戦後、小樽市に本社を移転させ、地元名産の「小樽切子」を開発したガラス製造の業界では名門事業者だ。同じ北海道の(株)マテックの経営思想とマッチングしたことになる。

◇資源再利用で異業種と連携

(株)マテックでは自社で発生した廃棄物を異なった形の最終商品に作り上げるには「単独での試みには限界あり」と判断し、深川硝子工芸との連携に踏み込んだわけ。

「自社内で発生した資源の再利用については杉山博康社長自らが熱心に提案しておられたので当社担当者も全力上げて対応したのが大きいきっかけでした。さらに地元小樽の深川硝子工芸さんの吹きガラス技術は一流で当社の考え方を素直に受け入れてくださったことも成功の大きい理由です」(山中真ELV事業部長、佐藤輝化学部長)という。

ちなみに自動車ガラスには純粋なガラス素材と比べるとやや異なった性質があり、それが理由でガラス製品に仕上げた場合、気泡を含んだり、深いグレーやブルーの色合いが濃く出る傾向がある。この特性が深川硝子工芸の技術でこれまでのガラス製品とは一味違った特色のある色合いになるなど思わぬ効果を発揮している。

◇NPO JARAエコプロ2021出展で表舞台に

今回、このガラス製品がNPO JARAのエコプロ2021出展がきっかけで改めて公開され、自動車リサイクル業者が自動車ガラスの再利用で商品開発が果たされたと反響を呼んでいる。

このガラス製品と並行して(株)マテックでは高級車の革シートを利用した「名刺入れ」も商品化しており、廃棄自動車素材からの商品開発に実績を積んでいる。

同時に最近のインターネットビジネスのネットワークにこれら一連のマテック商品がラインナップされており、一般消費者からの問い合わせも多数入っており、同社としてはこういうビジネス活動に手応えを感じているようだ。

自動車リサイクル事業のあり方が単に部品再利用の域に留まらず、全く形の違う商品の開発に繋がった珍しい例として注目される。

我社の経営参謀紹介します 第24回

創業5年目の新進リサイクル事業者 アプレシア（株）の岡田隆浩専務に聞く

▲「現代表者水谷氏はトヨタ系IT企業出身の同社」

今回の参謀紹介はビッグウェーブ加入が一年前という新進会員アプレシア（株）。創業が平成24年という若い自動車リサイクル業者である。代表者水谷重仁氏は39歳の元トヨタ系IT企業出身という変わり種で、リサイクル業界特有の気風に全く影響を受けることなくこの業界に足を踏み入れた。しかしその側で実務を支えるのは水谷氏と同年の岡田隆浩専務で、愛知県の有力リサイクル企業で15年キャリアを積んだ経験者。IT出身と実務経験とが合致した同社の今後の動きが注目される。参謀岡田専務に近況を聞いた。

岡田専務のご入社の経緯をお伺いします。

岡田　私はガソリンスタンド事業や用品販売、整備工場での整備士の経験をしてから自動車リサイクル企業に入ったという形です。そこで自動車リサイクルの基本をみっちり教えていただいて、自動車解体の腕を磨かせてもらいました。その後に中学時代の同級生だった水谷社長と出会う機会を得たのです。新しくアプレシアを立ち上げると聞いて一緒に働く決意をしました。

アプレシアさんの現状はどういうものですか。

岡田　現状は総社員6人で月間処理台数60台、部品在庫量3500点の規模です。立ち上げて5年目ということで全てはこれからです。ビッグウェーブさんに入会したのは1年と1ヶ月前という状態です。よろしくお願いします。

岡田専務は今、主にどういうお仕事をされていますか。

岡田　会社の業務全般の管理ですが、主に注力しているのは仕入れと値付けです。特にネットオークションの動きは毎日チェックしています。仕入れと密接に関連する廃車引き取りも細目まで管理しています。最近はビッグウェーブさんとも密接に連絡を取りながら日常の業務をこなしているところです。入会間もないところなのでBW本部のご担当のご指導をいただき感謝しています。

なるほど。出足は好調という感じですね。ところで水谷社長はどういうタイプの経営者ですか。岡田さんの目から見てどういう風に見えていますか。

岡田　当社の水谷は私の中学時代の同級生といいましたが、今改めて思うと私とは全く違う環境でここまで来たことから初めから意見の衝突というのが起きない関係です。これは私にとっては得難いことで人生の出会いとは不思議なことだなあと感じています。ともかく代表は笑顔が素晴らしい人です。代表は「電話でお客様とお話する時も笑顔を忘れるな」と社員を教育しています。単純明快で私も全く同感しています。正直言って私自身が社長の笑顔に惹かれてこの会社に入社したのだと今頃気が付きました（笑い）それに加えて有言実行を旨として着々と事を運んでおられますので、私は代表の見解を現場に正確に落とし込むことに専念しています。

ではここで岡田専務のリサイクル部品販売についてのお考えを伺いたい。

岡田　最近は車両の総量が減少気味で、台当たり価格も高騰していますので簡単に利益を確保するのは難しくなっています。そこでともかく入手できる範囲の車両、購入できる車両に的を絞って、これを丁寧に部品取りする姿勢です。私はどんな車両でも必ず売れる部品が内蔵されていて、それを正確に見つけ出す、効率よく生産するというところに力を入れています。それと同時に当然、利益率の高い車両の仕入れも並行して進めるというスタイルです。言い方を変えますと「隠れた需要がある車両の部品を丁寧に生産して利益を積み上げる」というものです。そのためには自動車部品に対する基本情報を常に収集する習慣を身に付けることです。インターネット上の部品情報を丁寧に集積することで市場の傾向を読み取る努力をしています。

これからのリサイクル部品流通はインターネット情報の管理が決め手のようですね。そういう岡田さんの視点でこれからの自動車リサイクル市場の動きを予測してみてください。

岡田　自動車産業の将来がEV化の方向にあることは間違いありませんが今後の成り行きについては慎重に分析しなければならないと思います。まず一つは今後のガソリン車に関する部品調達はほぼリサイクル部品が中心になっていきます。これは我々の業界の出番ですから悪いことではありません。そういう観点から見ると今走っているガソリン車はどの部品も将来必ず需要があるということになります。次の課題はEVのリサイクルというのは実際にはどこまで可能かという分析です。EVのリサイクル時代というものがあるとしてそれはどういう形で発生し、我々がどういう具合に関わっていけるのかという見通しを付けることだと思います。私の個人的な感覚ですがやはりガソリン車は一定数存続するのではないかとも思っています。全数EVという状態がまだまだ想定しにくいということです。

最後の課題ですがEV時代の中心部品であるバッテリーの再生がどこまで可能かということです。我々リサイクル事業者の今後の役割はこのEV用バッテリーの再生にどこまで踏み込めるかということです。今からしっかり実験研究していく課題だと思います。言葉をまとめますとここ当分の間は「EVとガソリン車のリサイクルの双方に手を届かせる」にはどうすればいいのかということだと思います。

発行

株式会社 JARA
〒103-0028　東京都中央区八重洲1-1-8　八重洲KTビル1F
TEL 03-3548-3010　責任者／柴田　純奈

株式会社 ビッグウェーブ
〒497-0005　愛知県あま市七宝町伊福鍛治屋前58
TEL 052-441-7502　責任者／森川 信也